



海について
話し、楽しむ。
大人も学べる
真鶴の屋下がり。



豊かな生物多様性を育む相模湾を未来へ

科学と社会をいかにつなぐか



2026 SAT.
3.14 15:00-17:00

講師

幸塚 久典氏
KOHTSUKA Hisanori

東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所
技術専門職員

水井 涼太氏
MIZUI Ryota

特定非営利活動法人ディスカバーブルー
代表理事

▶ 会場 横浜国立大学臨海環境センター 食堂

▶ 定員 30名程度 ※要予約/参加無料

建築学科学生により
2月中にリニューアル予定!

海まちラボとは

真鶴の海の豊かさや魅力をさまざまな形で実感し、環境や持続可能利用について考えていただく機会としてご参加いただくプログラムです。「海トーク」はその一環として、座学スタイルの講座を行い、毎回講師をお迎えして地域の海の魅力をお話しいたします。

主催:横浜国立大学地域連携推進機構臨海環境センター

共催:東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所、真鶴町、株式会社横浜銀行、特定非営利活動法人ディスカバーブルー

トークテーマ

豊かな生物多様性を育む相模湾を未来へ ～科学と社会をいかにつなぐか～

相模湾は、多種多様な海洋生物を育む海として知られています。湾内には、南からの黒潮、北からの親潮によってさまざまな生物が運ばれてくることに加えて、湾中央部は水深1,000m以上にも達し、深海生物も数多く生息しています。相模湾の豊かな生物多様性は、古くから国内外の多くの研究者が興味を抱き、日本で最も海洋生物の研究が進んだ海域です。一方で、三浦半島から湘南海岸、真鶴半島へと続く相模湾の海岸線は多くの人を魅了し、さまざま形で海洋利用が行われている場所であり、沿岸には非常に多くの人たちが暮らしています。

三浦半島に位置する東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所は、日本でも最も歴史ある実験所で、現在も相模湾の海洋生物研究の中心的存在です。今回の海トークでは、同実験所で海洋生物の採集・飼育を担当し生物展示や海洋教育に注力されている幸塚氏と、横浜国立大学発ベンチャーとしてディスカバーブルーを立ち上げ、真鶴町を中心に持続可能な海と社会との関係構築をめざす水井氏をお迎えして、生物多様な豊かな相模湾の姿と温暖化などのいま直面している危機や課題についてお話を伺います。地域社会として豊かな相模湾を未来に残すため、お二人の話題提供をもとに、海洋生物学や環境学など海に関する科学をいかに社会実装し地域社会の海洋リテラシー向上を図っていくのか、大学の研究施設が地域の海のラーニングセンターとしてどのように機能できるのかについて、参加者のみさんと共に考える機会としたいと思います。



講師

幸塚 久典氏 東京大学大学院理学系研究科
Hisanori KOHTSUKA 附属臨海実験所 技術専門職員

葛西臨海水族園でアルバイト後、のとじま水族館の飼育技師、環境コンサルタント会社の研究員、長崎ペンギン水族館の学芸員を経て、現在は東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所の技術専門職員として勤務。専門は棘皮動物（とくにウミシダ類・ウニ類）の分類学。仕事柄、さまざまな海で生物調査なども行っている。

水井 涼太氏 特定非営利活動法人ディスカバーブルー
Ryota MIZUI 代表理事

横浜国大大学院修士課程修了後、現・(国研)海洋研究開発機構(JAMSTEC)勤務のち、再び大学院で博士号を取得。横浜国大ベンチャービジネスラボラトリー研究員として大学発ソーシャルベンチャー「ディスカバーブルー」を起業。また、2012年～2017年には横浜国立大学統合的海洋教育研究センター特任教員として海洋の総合的管理にも従事。

お申し込み方法

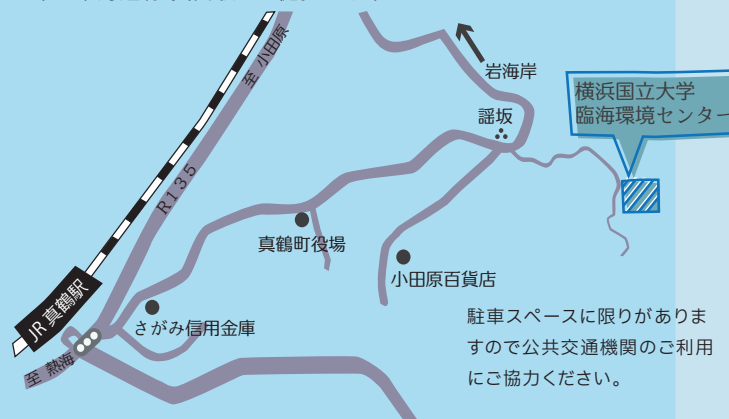
- ・イベントのご参加には、ご予約が必要です。お申し込み締切までにお申し込みください。
定員に達し次第、受付終了となります。
- ・ディスカバーブルーのホームページ内「海トーク」のページ、または下記二次元バーコードから申し込みフォームへアクセスし、お申し込みください。

お申し込み締切 2026年3月12(木)



アクセス

横浜国立大学臨海環境センター
神奈川県足柄下郡真鶴町岩61
(JR東海道線 真鶴駅より徒歩15分)



駐車スペースに限りがあり
ますので公共交通機関のご利用
にご協力ください。

お問い合わせ

特定非営利活動法人
ディスカバーブルー Discover Blue®
mail: info@discoverblue.org